

13年ぶりに復活!
アジアンクィア映画祭
第5回

5th ASIAN QUEER FILM FESTIVAL

in TOKYO

아시아 퀼어 영화제
韓国フォーカス

共振する色彩、
輝くソウル

2026 2.21 SAT
- 2.22 SUN

【企画・主催】AQFF運営事務局



イパンリのチャン・マノク！

이반리 장만옥 / Manok

2024年 | 108分

★オープニング作品

監督:イ・ユジン

ソウルでレズビアンバーを営むマノクは、母の訃報をきっかけに店を畠み、故郷イパンリへと戻る。しかし、元夫の妨害や、偏見に満ちた地域社会の現実に直面した彼女は、自ら村長選挙に立候補することを決意するが——。

2025年の富川国際ファンタスティック映画祭で「観客賞」を受賞し、主演のヤン・マルボク（『同じ下着を着るふたりの女』『イカゲーム』）が「俳優特別賞」を受けた本作。韓国の方を舞台に、ジェンダーと世代を超えて生きる力を描いた、ハートフルなヒューマン・コメディ。現在、韓国国内外の映画祭で「マノク旋風」を巻き起こしている。頑固でチャーミングなマノクが繰り広げる、「笑いと痛み、そして連帯」の物語。



夢を見たと言って

꿈을 꾸었다 말해요 / Tell Me That You Love Me

2025年 | 73分

監督:キム=ジョン・グアンス

カメラの中古取引で出会ったキョンイルとキョンホ。キョンホはお金が必要でカメラを売りに来るが、愛着のあまりなかなか手放せない。ひと悶着の末にキョンイルがカメラを受け取って去ると、諦めきれないキョンホは思わず後を追う。奇妙な占い師や元カレとの遭遇を経て、二人の一日は思いがけない方向へ転がっていく——。

2025年の全州国際映画祭でワールドプレミアされた本作は、オープning・ゲイの監督であり、韓国で初めて同性結婚を挙げたことで知られるキム=ジョン・グアンス監督（『2度の結婚式と1度の葬式』）の最新作。日本でも配信されたイ・ホンネ主演の『Made in Rooftop』や、BLドラマ『新入社員』などを手がけ、『BLの名手』として確固たる人気を築いた監督が贈る、軽やかで愛おしいロマンティック・コメディ。



ソラスタルジア

솔라스탈지아 / Solastalgia

2024年 | 95分

監督:イ=ソン・ヒイル

2022年、韓国・江原道東海市で朝鮮半島史上最大規模の山火事が発生する。映画学科の学生たちは、卒業制作のドキュメンタリーを撮るために被災地を訪れるが、撮影中の対立を経て大半のスタッフがソウルへ戻り、現地には監督と撮影監督だけが残ることに。二人は長い時間をともに過ごすうちに、監督の過去と心の傷が明らかになっていく——。

本作は、韓国クリア映画の旗手イ=ソン・ヒイル監督（『後悔なんてしない』）による、10年ぶりのクリア映画復帰作であり、最新作でもある。タイトルの「Solastalgia（ソラスタルジア）」は、環境変化によって故郷を失った人々が抱く「失われた場所への郷愁」を意味する。気候危機を背景に、「喪失と再生」を真摯に描き出した、静かな余韻を残す作品。



3670

3670

2025年 | 124分

監督:パク・ジョンホ

若い脱北者チョルジュンは、脱北者同士の強い絆に支えられながらも、自らがゲイであることを隠したまま、深い孤独を抱えていた。やがて彼はソウルのゲイコミュニティに足を踏み入れ、そこで出会ったヨンジュンと心を通わせていくが——。

2025年の全州国際映画祭では〈配給支援賞〉（CGV賞）〈Watcha賞〉を受賞し、ヨンジュン役のキム・ヒヨンモクも〈俳優賞〉を受賞。また、同年の青龍映画賞では最優秀新人監督賞にノミネートされた本作は、同年9月に韓国で劇場公開され、インディアート系部門で興行ランクイン首位を記録した話題作である。静かな語り口の中に、アイデンティティや理解、「共に生きること」の意味を問いかける。韓国発の感動作。



夏の日のカメラ

여름의 카메라 / Summer's Camera

2025年 | 82分

監督:ソン・ディ・ヴァイン

高校生のサマーは、亡き父が残したフィルムを現像できずにいた。しかし、サッカー部のスター選手ヨヌと出会い、彼女を撮るうちに心が動き始める。現像した最後のフィルムには、父が密かに撮影していた一人の男性の姿が写っており——。

2025年のシアトル国際映画祭ファーチャー・ウェーブ部門で「最優秀長編作品賞」を受賞。映画『虐待の証明』（2018）でデビューし、映画『クローゼット』やNetflix映画『キングダム：アシンの物語』『キル・ボクソン』、ドラマシリーズ『Sweet Home -俺と世界の絶望-』シーズン2・3などに出演、複数の子役賞を受賞してきたキム・シアが、本作で初主演を務める。繊細に、鮮やかに描かれる初恋と喪失、そして「自分自身であること」の物語。



二人 ～リハーサルのない人生～

두 사람 / Life Unrehearsed

2022年 | 80分

監督:パン・パク・ジウン

36年前、スヒョンはドイツ在住の韓国人女性信徒による修練会で、インソンと初めて出会い、花を贈った。20代で言葉も通じない異国地・ドイツに渡り、看護師として働いた二人は、30年間にわたって人生の苦楽を共に歩み、自分たちと同じ〈異邦人〉のために連帯し、互いを支え合ってきた——。

釜山国際映画祭やソウル国際女性映画祭をはじめ、世界各国の映画祭で上映され続けているドキュメンタリー。（監督の言葉）「韓国では特に年配のレズビアンが可視化されていない。メディアに登場しないため、まるで存在しないかのように“存在”が消去されてしまう。この映画はだからこそ、レズビアンや他の周縁化された人々と肩を並べて世界に立ち向かう映画だ。」



アジアンクィア映画祭は2013年の第4回開催以降、長く休止していましたが、再び始動します。

13年の時を経て、さらに進化し、多様化を遂げたアジアのクィア文化を紹介する、新たな出発点となる映画祭です。

2.21 SAT
- 2.22 SUN
第5回 アジアンクィア映画祭

●各回 1,800円 均一
●全作品日本語・英語字幕付き ●全席指定・完全入替制 ●開場は、各プログラムの上映開始10～15分前になります。●一旦ご購入されたチケットの払い戻しは、興行中止の場合以外は一切致しかねますのでご注意ください。●当日の窓口での販売はありません。●ゲストによるトークイベントも予定しております。

最新情報・チケット発売はAQFF公式サイトにて



<https://aqff.jp>
[企画・主催]
AQFF運営事務局

会場:
ユーロライブ
EuroLive

東京都渋谷区円山町1-5
KINOHAUS 2F
渋谷駅徒歩8分
eurolive.jp

* 当イベント内容やチケットに関してユーロライブのお問い合わせはご遠慮ください。

